

成長戦略課題 トリュフの人工栽培に向けた菌定着苗作成技術の高度化 (R8~10)

森林総合研究所

背景・目的

【背景】

- トリュフは生きた樹木の根と共生する菌なので人工栽培困難
- 本県には黒トリュフの自生地あり
- H30: 自生トリュフの菌を接種したクリ苗木を試験植栽
- R6: トリュフの発生確認

黒トリュフの人工栽培に成功(全国2例目)

- R7: 継続した発生の確認、他の自生地調査を自主研究し、課題を明瞭化

【課題】

安定的に量産できる栽培方法の確立

<これまでの栽培方法>
苗木ポットに自生トリュフや周辺土壌を埋込み、苗木に菌を定着させる方法
⇒ (結果)トリュフ菌定着率がやや低位
※ 55本中 成功9本(16%)



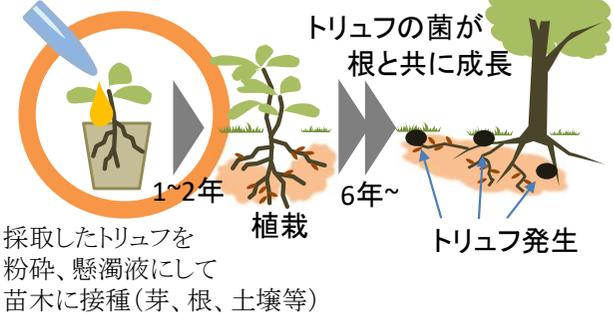
1st 定着成功率の向上が課題

- 2nd 量産化(第2期)
- 3rd 手順化、栽培者育成(第3期)

【目的】

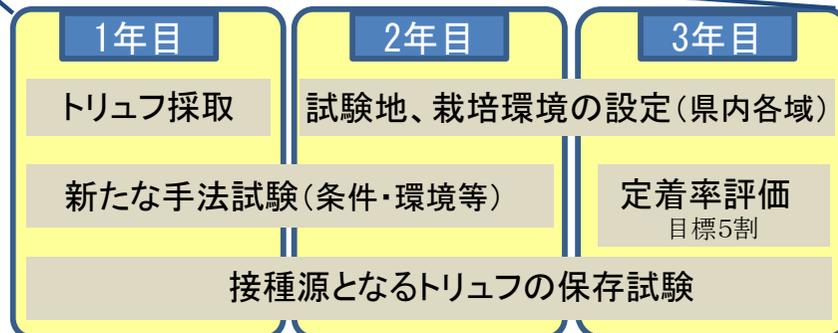
定着率を高め安定的な苗木の作成技術を確立

新たな試験方法



研究内容

第1期 (R8-10)	第2期 (R11-13)	第3期 (R14-16)
苗木へのトリュフ菌定着方法の改良	トリュフ菌定着苗の量産化手法の検討	高品質苗生産技術のマニュアル化 栽培環境の確立



期待される効果

安定して黒トリュフの栽培、収穫が可能

第2期以降の研究を経て、将来的に付加価値の高い本県の新たな特用林産物として発信



総合計画
戦略5・政策1・20
特用林産物の産地化・付加価値向上